



呼吸器外科医療録⑧

高齢者の 肺がん手術



高齢化社会の日本で、75歳以上の後期高齢者の肺がん患者さんは全体の半数以上を占めています。

20年前は80歳以上の患者さんへの肺がん手術は6%にすぎませんでした。

現在は、胸腔鏡手術により傷が小さくなり痛みや術後の負担が軽減したことや、切除する肺を縮小し肺機能を温存することで、術後のストレスが以前よりも格段に改善しています。さらに手術に耐えられる体力を持っている高齢の方が増えてきました。

80歳というだけで手術を断念することはありません。もちろん、高齢者になればストレスに対する予備能力は減ってきますが、元気で自立して治療の意欲のある患者さんでは若い患者さんと同じ治療が可能になってきています。

高齢で一人暮らしの患者さんは増えていますが、あらかじめ術後の生活環境を整え、地域や家族のサポートを得ることで、手術後も自立した生活をしている方は多くいます。

けんこうQ&A 在宅医療⑧

急に具合が悪くなったら どうするの？



在宅療養では「急に具合が悪くなったらどうすればよいのだろう」と不安に思われる方も多いでしょう。しかし、急な体調変化への対応は、その時になって考えるのではなく、元気づうちから準備しておくことが大切です。

在宅医療では、病状や生活の状況、ご本人やご家族の希望を踏まえ「どのような時に医療機関へ連絡するか」「救急搬送が望ましい場合はどのような時か」などを、あらかじめ担当の医師と相談しておくことができます。また、対応に迷った時には、担当

の医師や訪問看護師に相談することもできます。

病状によっては救急搬送が適切な場合もあれば、ご本人が住み慣れた自宅での療養を希望され、その方針に沿って対応する場合もあります。

大切なのは、いざという時に慌てて判断するのではなく、ご本人・ご家族・医療者が事前に十分話し合い、対応方針を共有しておくことです。それが、安心して在宅療養を続けることにつながります。

